新防災教育副読本（中学校）『第２章２　約束』を活用した　道徳の指導例

第３学年　道徳指導案

１　主題名　明日に向かって　３－（３）　人間の強さと気高さ，生きる喜び

２　資料名　約束　ｐ１２－１３（新防災副読本　中学校）

３　主題設定の理由

（１）価値について

内容項目３－（３）は，「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて，人間として生きることに喜びを見いだすように努める。」である。ありのままの人間は，決して完全なものではない。人間は，総体として弱さはもっているが，それを乗り超え次に向かって行くところに素晴らしさがある。人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき，人間は強く，また，気高い存在になりうるのである。ここで言う人間としての生きる喜びとは，自己満足ではなく，人からほめられたり，認められたりするという喜び，人間としての誇りや深い人間愛，崇高な人生を目指し，同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びである。中学生の時期は，人間が内に弱さや醜さを持つと同時に，強さや気高さを併せて持っていることを理解することができるようになってくる。自分を含め，人はだれでも人間らしいよさを持っていることを認めるとともに，決して人間に絶望することなく，だれに対してもその人間としてのよさを見いだしていく態度を育てることが大切である。そこで指導に当たっては，まず自分だけが弱いのではないということ，自分を奮い立たせることで目指す生き方，誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする。人と人との関わりを考えさせることで，その関わりの中で，希望が生まれ，共に生きていくことへの深い喜びにつながること，しいては「強く生きる」ことにつながることに気付く思考力を育むことにつながると考える。

（２）生徒の実態について（省略）

（３）資料について

震災の際には，多くの人の命を奪い，たくさんの人の生活を壊した。人間の死を直視しなければならない状況を体験し，故郷を離れざるを得なかった人も多い。震災直後の避難所にはそのような人たちがあふれた。しかし，人々は不安な気持ちにさいなまれながらも，互いに励まし合い支えあった。絆は人の心を強くし，支え合うことで希望が生まれ，強く生きることにつながることに気付かせたい。

４　本時の指導

（１）本時のねらい

絆は人の気持ちを強くし，支えあうことで希望が生まれ，強く生きることにつながることを気付くことができる。【思考力】

新防災教育副読本（中学校）『第２章２　約束』を活用した　道徳の指導例

（２）指導過程

主な学習活動・内容（○主な発問・生徒の反応）	・留意点　◎評価
１　本時の学習のめあてを確認する。 ○今日の授業は,東日本大震災で大切な友達や家をなくした悲しみの中でも，希望を持って前向きに生きようと努めた中学生の作文を題材にして進めます。	・「第２章２　約束」のキーワードは,「地域密着の教材」と「語り部」であることを指導者として押さえておく。
２　資料を読んで話し合う。 ○「ただ呆然と避難所の床に座っていた私」は，どのような気持ちで生活していたのでしょう。 ・津波に流されていく人たちを助けられなかった自分の無力さを感じている。 ・助かったけれど，素直に喜べない。 ・悲惨な光景を目にして，何も考えられない。	・多くのものを失った筆者の悲しみの深さに思いを寄せさせる。 ・自分の考えを書いてから発表させる。 別紙ワークシート
○笹原のおばあちゃんがくれた「砂混じりのおまんじゅう」は,どんな力を持っていたのだと思いますか。 ・「私」を笑顔にする力。 ・一人じゃない，と思わせてくれる力。 ・生きていることのありがたさを感じさせてくれる力。	・支えてくれる人がいることのありがたさ，生きていること自体がすばらしいことなのだということに気付かせる。
○「私」はどうして「このままでは終われない。」と思ったのでしょう。【副読本の課題１】 ・「幸せ」は当たり前にあるものではないことに気付いたから。 ・笹原のおばあちゃんの思いを受け継がなくてはならないと思ったから。	・笹原のおばあちゃんの死によって，人との絆が幸せにつながることに気付いた「私」の気持ちをとらえさせる。 別紙ワークシート
◎「私」にとって，笹原のおばあちゃんとの「約束」は，どのような意味を持つのか，考えましょう。【副読本の課題２】 ・笹原のおばあちゃんが言っていたように，笑顔で生きていくこと。 ・生き残った者として，死んだ人たちの思いをつないでいかなければならない。 ・つらいから忘れるのではなく，前を向いて歩んでいかなければならない。	・命あることのすばらしさや，夢を持って前向きに生きることの大切さに気付かせる。 別紙ワークシート ・４人グループになり，グループ内で自分の意見を発表し,出た意見をまとめ,グループごとに発表する。 ・人間の命は有限だが，だからこそ，強く前向きに生きることの重要性を語ることにより,自分の生き方を考えさせたい。

新防災教育副読本（中学校）『第２章２　約束』を活用した　道徳の指導例

３　本時の学習を振り返る。 ○石巻で被災し，仙台で新しい生活を始めた中学生の作文（地域密着の教材）を基に，学習したことを振り返りましょう。本時の学習を通して考えたことやこれから心がけたいことを書きましょう。 ４　教師の説話を聞く。 （説話例） 人生には，多くの苦しいことがあります。でもそれから逃げるのではなく，悔いのないように生きていくことを考えましょう。 自分が体験した災害を忘れず過去の災害に対する教訓も学び，**語り部**となってそれらを語り継いでいくことが，今後のみなさんの役目です。	別紙ワークシート ◎　評価：ワークシートから 絆は人の気持ちを強くし，支えあうことで希望が生まれ，強く生きることにつながることに気付くことができたか。

【参考】この作文は，平成 23 年 10 月に仙台市立中学校へ「東日本大震災に関連する記録資料等の提供」を依頼した際に，仙台市内のある中学校から提供された。一部内容を変更して掲載している。

【キーワード】　地域密着の教材　語り部

（４）板書計画

出来事　⇐　私

避難所の床に座っていた
・無気力
・助かったけど喜べない

⇐

砂混じりのおまんじゅうの力
（おばあちゃんとの出会い）
・笑顔にする
・1人じゃない
・生きていることのありがたさ

⇐

おばあちゃんの死
・決意
・思いを受け継がなくてはならない

約束
・笑顔で生きていくこと
・思いをつながなければいけない
・前を向いて歩かなければならない

⇐

多くの苦しいことはあるが、
悔いのないように生きていくこと

（５）準備物・ワークシート
＊別紙ワークシート参照

第２章	復興への歩み	名	年　組　番
２	約　束　　　P12−13	前	

1　「ただ呆然と避難所の床に座っていた私」は，どんな気持ちで生活していたのでしょう。

2　「私」はどうして「このままでは終われない。」と思ったのでしょうか。

3　「私」にとって，笹原のおばあちゃんとの「約束」は，どのような意味を持つのか考えてみましょう。

4　これからあなたはどんな生き方をしていきたいですか。自分の考えを書きましょう。